

このバージョンは、実際に発表に用いたものから、内容の重複を整理し、著作権上の配慮が必要な画像を除去して、公開するものです。

# 沖縄県沖縄市における コミュニティ放送の社会的背景

山田 晴通(東京経済大学)

yamada@tku.ac.jp

経済地理学会西南支部例会

熊本学園大学

2014.03.15.

## 発表者の関心の所在

- 本発表は、発表者が研究分担者として参加した、科学研究費補助金・基盤研究(B)「デジタル時代の情報生成・流通・活用に関する地理学的研究」(代表者:和田崇・県立広島大学准教授)の2013年度の成果の一部。

# 発表者の関心の所在

従来からのコミュニティ放送への関心：

- 2000: FM西東京にみるコミュニティFMの存立基盤. 人文自然科学論集(東京経済大学), 110, pp.59-84.
- 2005: オーストラリアの地方都市アーミデールにおけるコミュニティ放送とナローキャスティング. 地理学評論(日本地理学会), 78, pp. 545-559.

# 発表者の関心の所在

最近の地域メディアの変化への関心:

- 2012: 平成の大合併と地域メディアをめぐる動向. コミュニケーション科学(東京経済大学), 36, pp.3-30.
- 2013: 行政の広域化と地域情報化の課題. 地理科学(地理科学学会), 68-3, pp. 143-152.

# 発表者の関心の所在

沖縄市への関心: 現時点では学会発表のみ

- 2013: 沖縄市におけるポピュラー音楽文化関係観光資源の現状と、その活用の可能性. 東北地理学会・2013年度春季学術大会(仙台市戦災復興記念館)
- 2013: Dream and reality of the Koza Music Town, Okinawa, Okinawa, Japan. 第8回日中韓地理学会議(九州大学)

# 発表者の関心の所在

- 沖縄県では近年になって急速にコミュニティ放送局が普及した。
- 沖縄市には、県内の先駆的事例があった。
- しかし、**経営が不安定というコミュニティ放送の負の側面**もあらわになっている。
- **それはなぜなのか？**

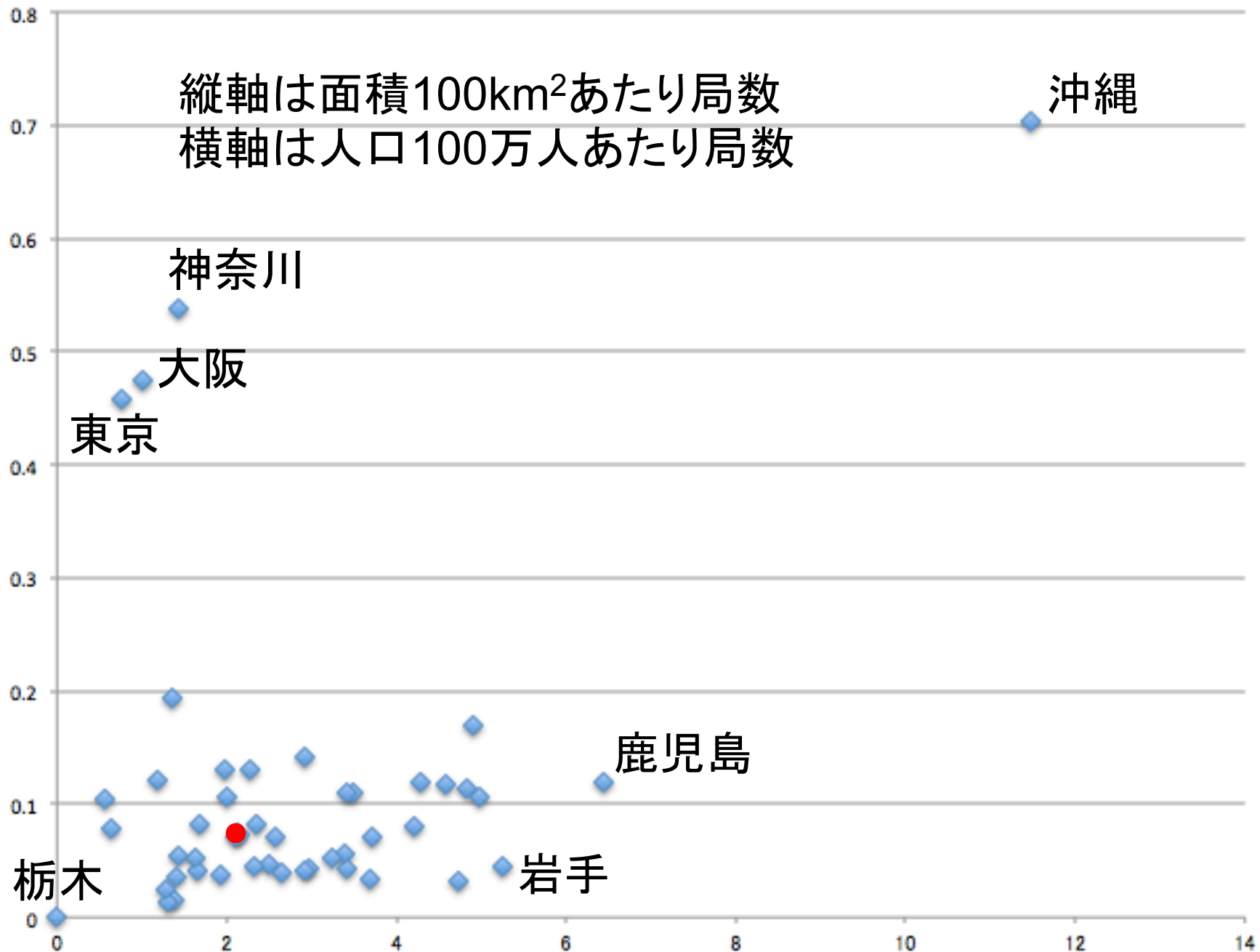
## 本発表の課題

- 沖縄県、および、沖縄市におけるコミュニティ放送局の普及状況、現時点までの経緯を、把握する
- コミュニティ放送に参画する人々への聞き取りを踏まえ、コミュニティ放送の存立基盤の社会的背景、特に沖縄の文脈における特色と考えられる側面について、仮説を提示する



# 現状の把握

- 1992年1月：コミュニティ放送の法整備
- 1992年12月：FMいるか（函館）開局
- 1997年3月：FM Champla! 開局  
沖繩市＝沖繩県最初  
全国61番目  
予備免許はFMたまん（糸満市）が先だった



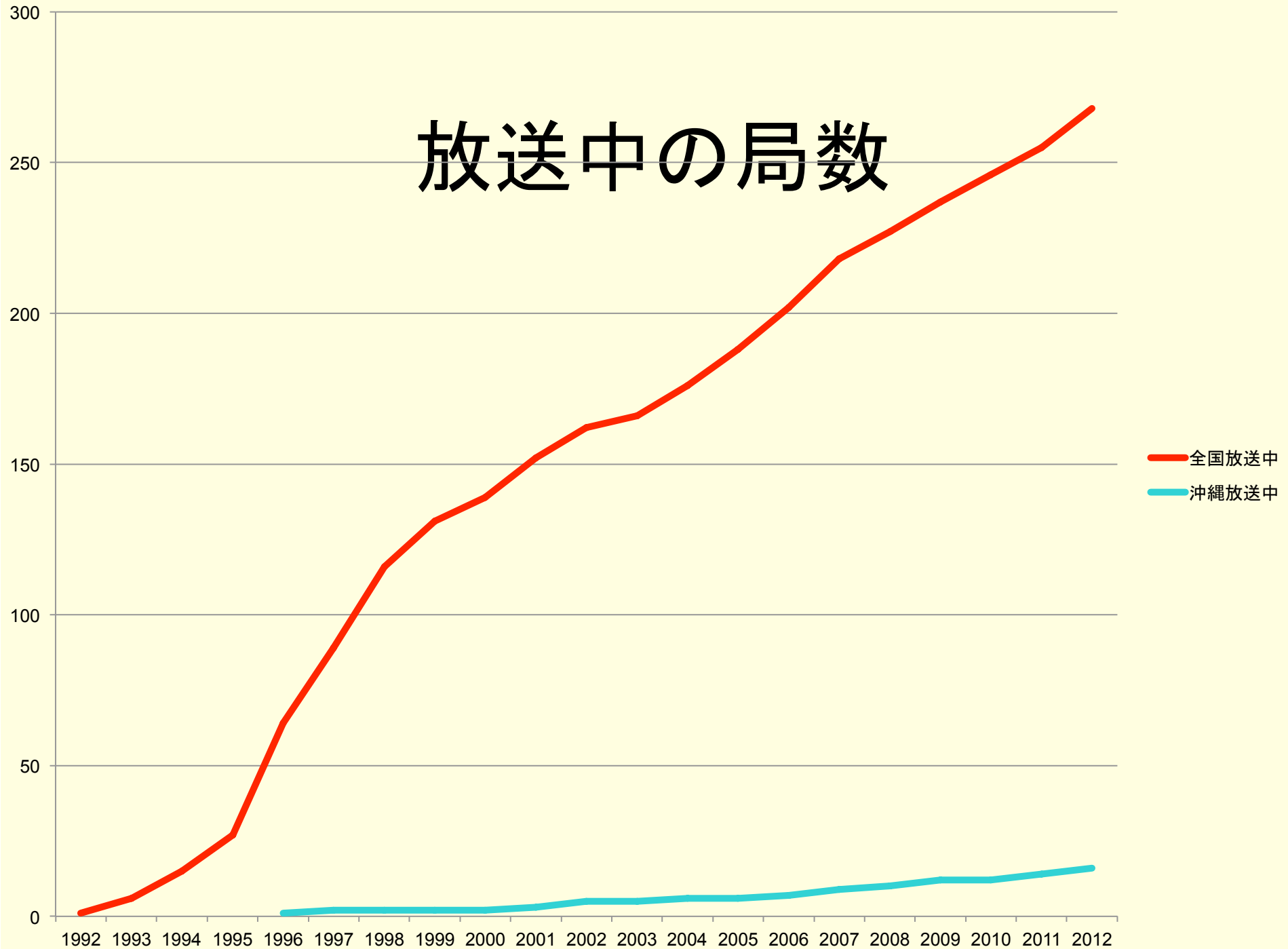
●赤丸は全国平均

2012年度末現在

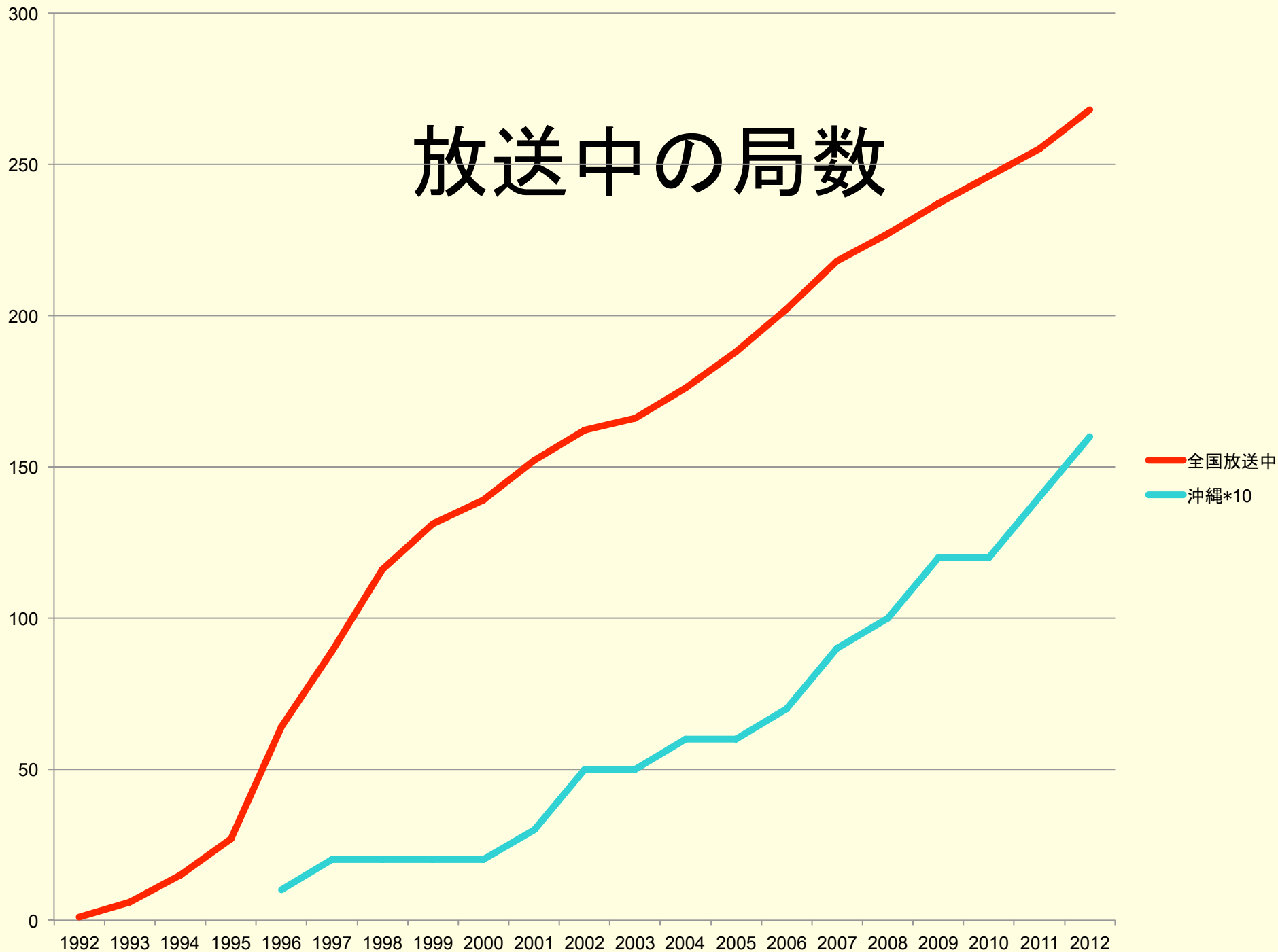
# 現状の把握

- 2012年度末現在：
- 放送中のコミュニティ放送局は
- 全国に 268 局
- 沖縄県に 16局
- 沖縄市に 2局
  
- 沖縄県は人口140万人余り

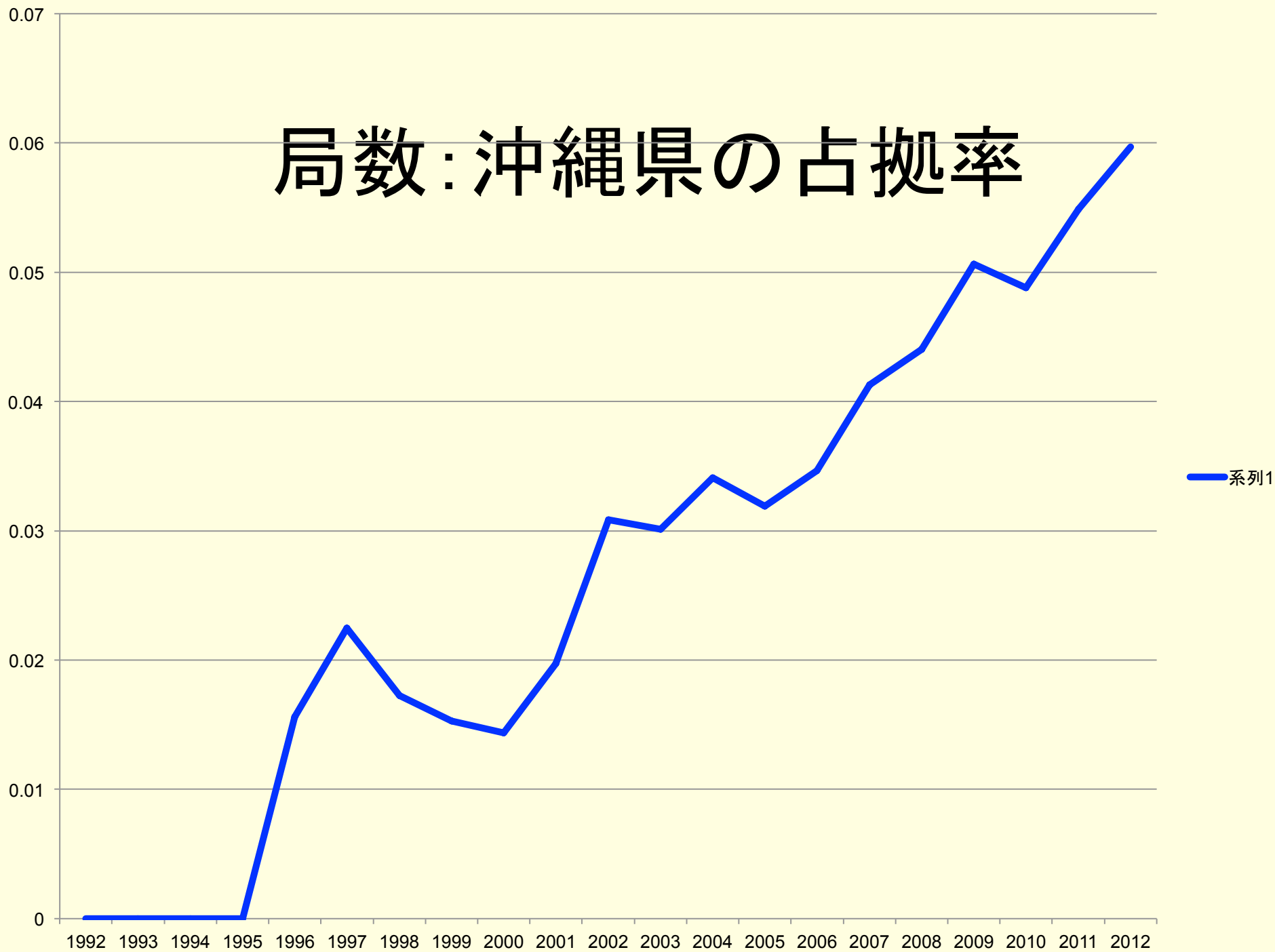
# 放送中の局数



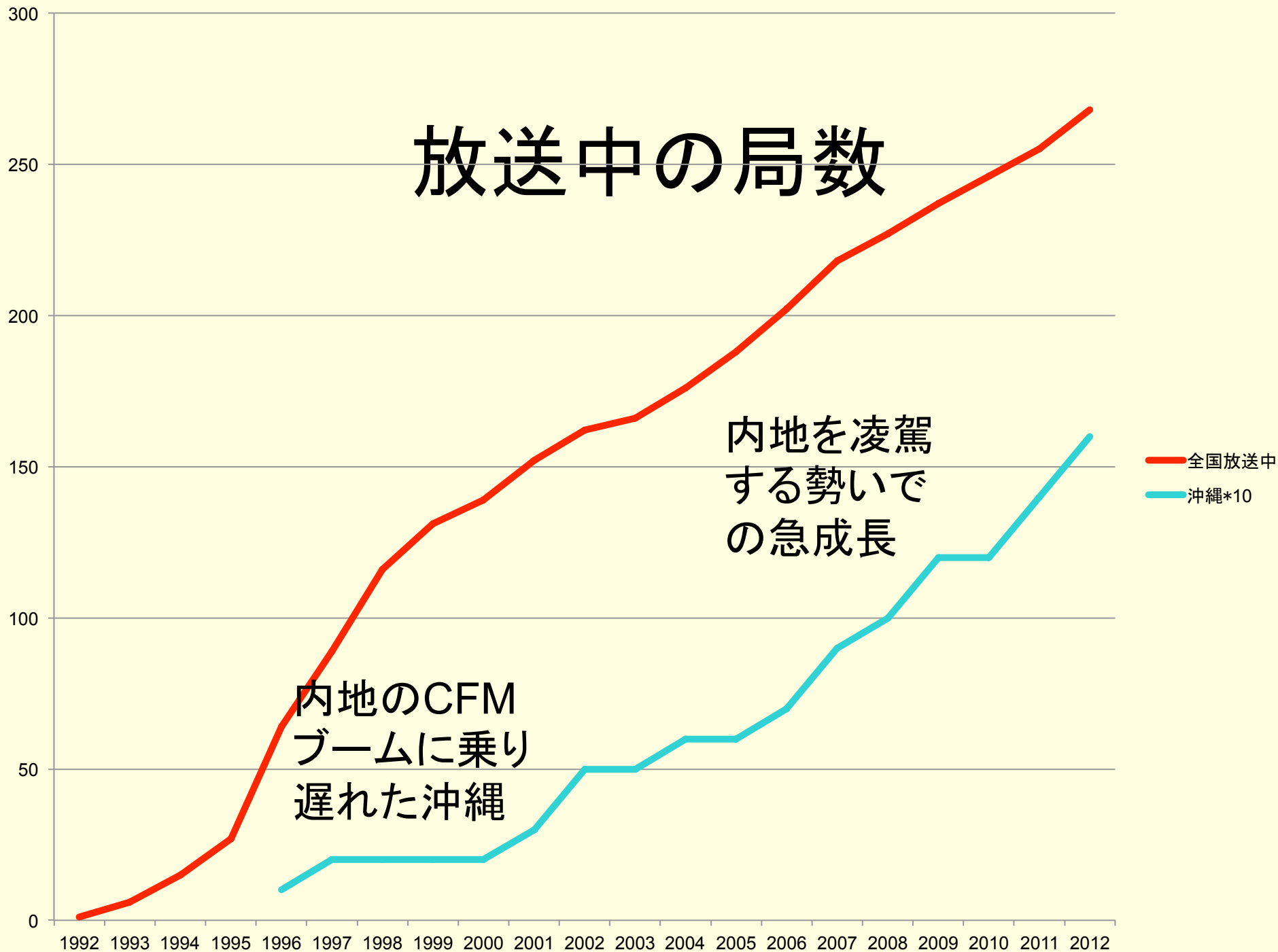
# 放送中の局数



# 局数：沖縄県の占拠率



# 放送中の局数



# 現状の把握

- 1997年3月 : FM Champla! 開局
- 1997年4月 : FMたまん開局(糸満市)
- 2002年1月 : FM21開局(浦添市)
- 以降、2006年度までは、ほぼ2年で1局増
- 2007年度以降は、2010年度を除き、毎年1~2局増

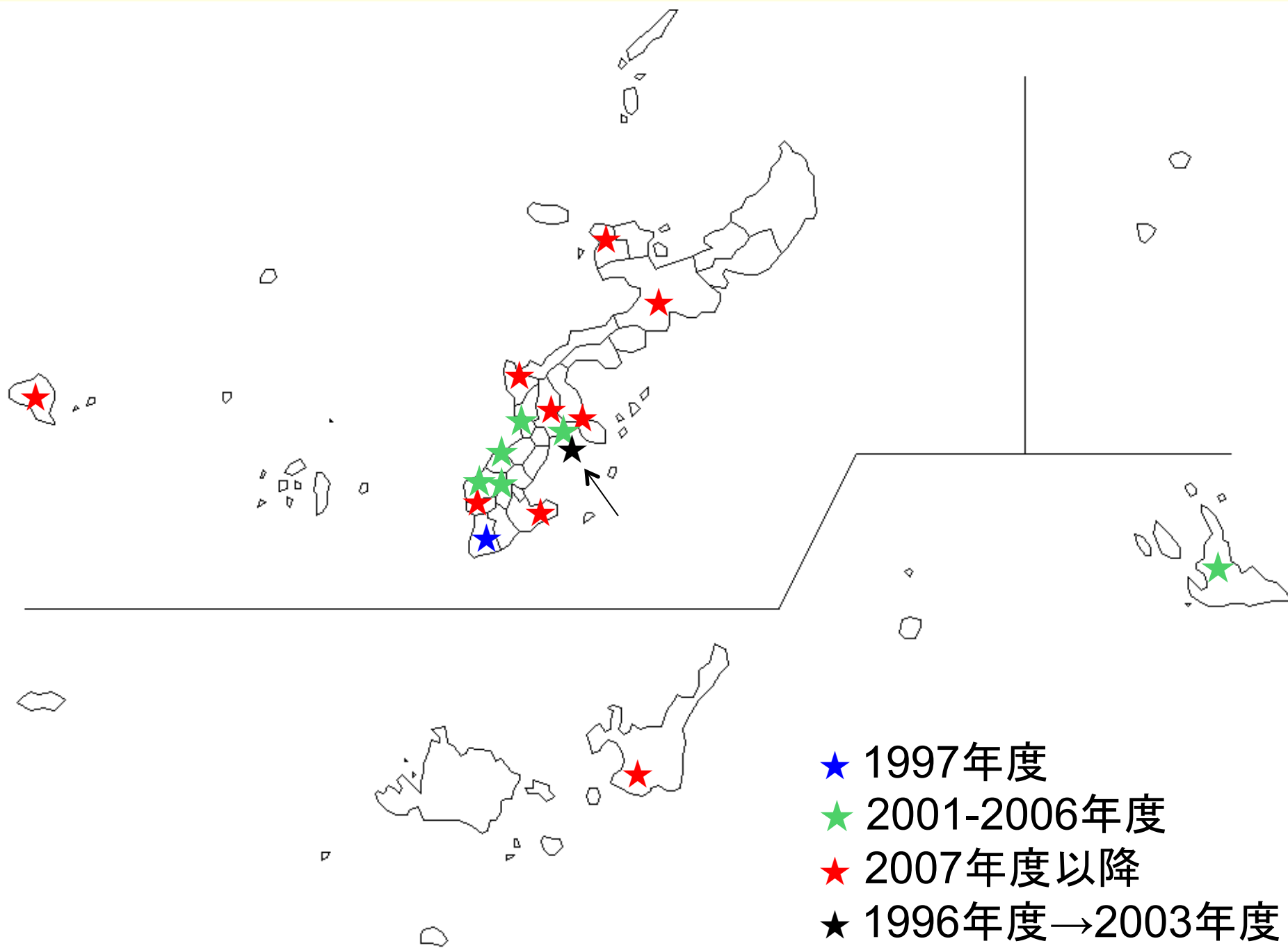


# 現状の把握

- 1997年3月 : FM Champla! 開局
- 1997年4月 : FMたまん開局 (糸満市)  
内地のCFMブームに乗り遅れた
- 2002年1月 : FM21開局 (浦添市)
- 以降、2006年度までは、ほぼ2年で1局増  
遅れを取り戻す遷移期
- 2007年度以降は、2010年度を除き、毎年  
1~2局増 沖縄のCFMブーム

# 現状の把握

- 2012年度末現在：
- 沖縄県には11市11町19村がある
- コミュニティ放送16局を所在地別に見ると、市にあるもの12、町3、村1
  
- 11市をコミュニティ放送局数で見ると、2局あるところが2市（那覇市、沖縄市）、1局が9市で、0局が1市（宜野湾市）となる。



# 現状の把握

- 地理屋としては、空間的拡散過程を云々したくなるような分布だが、サンプル数を考えれば安易な一般化は禁物
- 沖縄市は、沖縄県内で真っ先にコミュニティ局が開局し、真っ先に潰れた
- 1市2局体制は那覇市が先(2006年)で、沖縄市が後(2009年)

# 現状の把握

沖縄市に成立したコミュニティ局：

- FM Champla! (沖縄市エフエムコミュニティ放送) - 1997年3月～2004年3月
- FMコザ – 免許上は FM Champla! を継承  
– 2004年4月～現在
- オキラジ (沖縄ラジオ) - 2009年5月～現在

# FM Champla !

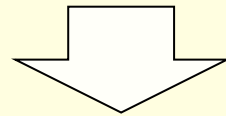
- 沖縄市エフエムコミュニティ放送
- 1997年3月1日 開局...沖縄県初、全国61番目
- 胡屋十字路近くの国道333号線に面したビルに入っており、当時の隣は市観光協会事務局

# FM Champla !

- 沖縄市エフエムコミュニティ放送
- 新崎は、島マス記念塾1期生 (1993年度)
- 1995年10月に郵便局を退職
- 1996年5月、会社設立
  
- 1997年3月1日 開局
- 1998年3月31日  
市役所屋上に送信アンテナ

# FM Champla !

- 沖縄市エフエムコミュニティ放送
- 市長選挙開票速報、政策放送
- 1997年夏から、小中学生の  
「ジュニア・アナウンサー」
- 1998年から中高生の番組『Teens Radio』



若年層へ広げたターゲット



# FM Champla !

- 沖縄市エフエムコミュニティ放送
- ラジオ・カーの運用「ユンタク号」
- 屋外行事の中継への取り組み  
エイサー道じゅねー  
おきなわマラソン

# FM Champla !

- 沖縄市エフエムコミュニティ放送
- 1999年時点の新崎社長のコメント：  
「これまでは赤字だが、スポンサーも増え、  
四期目には単年度黒字が見込まれる」
- 2003年時点の新崎社長のコメント：  
「二〇〇〇年ごろから経営が落ち込んできた。  
広告、営業収入減などの要因はあるが、損益  
分岐の判断など経営見通しが甘かった」

# FM Champla !

- 沖縄市エフエムコミュニティ放送
- 2003年末時点の累積債務は1億4400万円
- 2003年9月末、有給の社員2名が退職
- 以降は「有志による再建準備委員会」が運営
- 2003年11月28日の株主総会：  
社名変更と放送事業からの撤退が決定
- 機材等は「パルミラ通り」の「琉球出版」(荻野達司 社長)社屋へ移された

# FMコザ

- 2004年3月24日、萩原は「FMコザ」の設立を発表
- 2004年4月1日、FM Champla! の免許を継承する形で開局
- 開局記念番組の中では、ボクシングの生中継なども行なわれた

# FMコザ

- 2004年3月24日、荻原は「FMコザ」の設立を発表
- 2004年4月1日、FM Champla! の免許を継承する形で開局
- 当初の所在地はパルミラ通りの「琉球出版社」の1階

# FMコザ

- 荻原社長の活動拠点は南城市
- ある時期以降、現場は任せきりになった
- 荻原社長は、かなり謎めいた人物？
- 名は出てくるが、姿はネット上に見当たらない
- 生年など個人情報も公になっていない
- 有限会社 琉球出版社 も謎めいた存在？

# 琉球出版社の出版物

- 国会図書館には1970年代に数点の出版物がある「琉球出版社」の本もあるが、別会社の可能性が高い

# 琉球出版社の出版物

- 国会図書館には1990年代から2000年代にかけての出版物7点と、琉球出版社編とされる3点が収蔵されているだけ

「沖縄こどもの国」をきっかけに、沖縄市の観光情報誌（パンフレット）の編集など、公的な業務を受注



# FMコザ

- 荻原社長の活動拠点は南城市
- ある時期以降、現場＝契約社員2人に任せきりになった
- 開局から半年後には、単年度決算が黒字の見込みとも報じられた
- 基本的には堅調な滑り出しだった

# FMコザ

- 2008年度以降、沖縄市の放送広報予算は、もっぱらコミュニティ放送局に振り向けられた
- 2009年に2局目の「オキラジ」が開局
- ただし、関係者の間では、オキラジとの競争関係は、FMコザを徐々に追いつめていった複合的な要素のうちのひとつに過ぎなかったという見方が多い

# FMコザ

- 2012年11月、現在の取締役が現場の責任者となり、現場を総入れ替え
- 2013年3月2日、沖縄市中央3-1-25の現在地（「BCスポーツ店」跡）へ移転
- 旧所在地には「琉球出版社」の痕跡もない

# FMコザ

- 2013年以降の建て直しは順調に見える
- 時間枠の販売状況を比較すれば明白

# オキラジ

- 沖縄ラジオ
- 2008年10月10日、会社設立
- 2009年5月15日、開局
  - ＝コザ・ミュージック・タウン内
  - ...那覇市は2006年に2局化

# オキラジ

- 沖縄ラジオ
- 石川静枝 社長は、大正琴の指導者
- エフエム二十一（浦添市）に関わる
- 中高年に比重を置いた  
番組構成（FM21同様）

# オキラジ

- オキラジの登場後、1年ほどをおいてから、市の放送広報予算はFMコザと同額(80万円+)がふたつのコミュニティ放送局に投じられる

# コミュニティ放送の存立基盤

- コミュニティ放送の経営は営利性に乏しい
- にもかかわらず、新規参入が拡大している
- **政策的支援**（自治体レベル・国レベル）
  - 1995年 阪神淡路大震災
  - 2011年 東日本大震災
  - ⇒ 災害時メディアとしてのラジオ



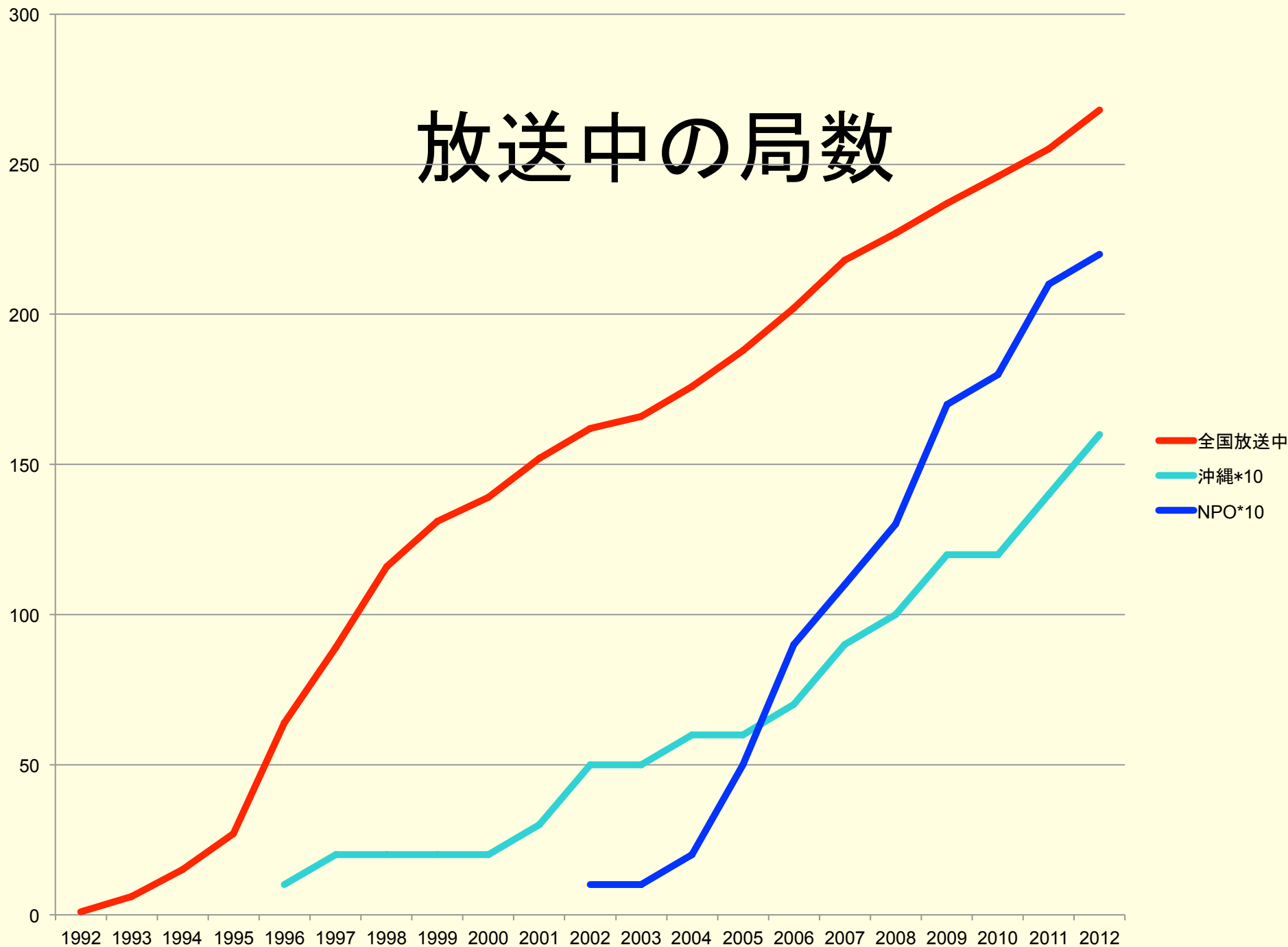
# コミュニティ放送の存立基盤

- コミュニティ放送の経営は営利性に乏しい
- にもかかわらず、新規参入が拡大している
- 政策的支援（自治体レベル・国レベル）
- 防災関係の広報努力を、防災無線など行政の直営メディアから、民間へ移行したいという行革指向の意識

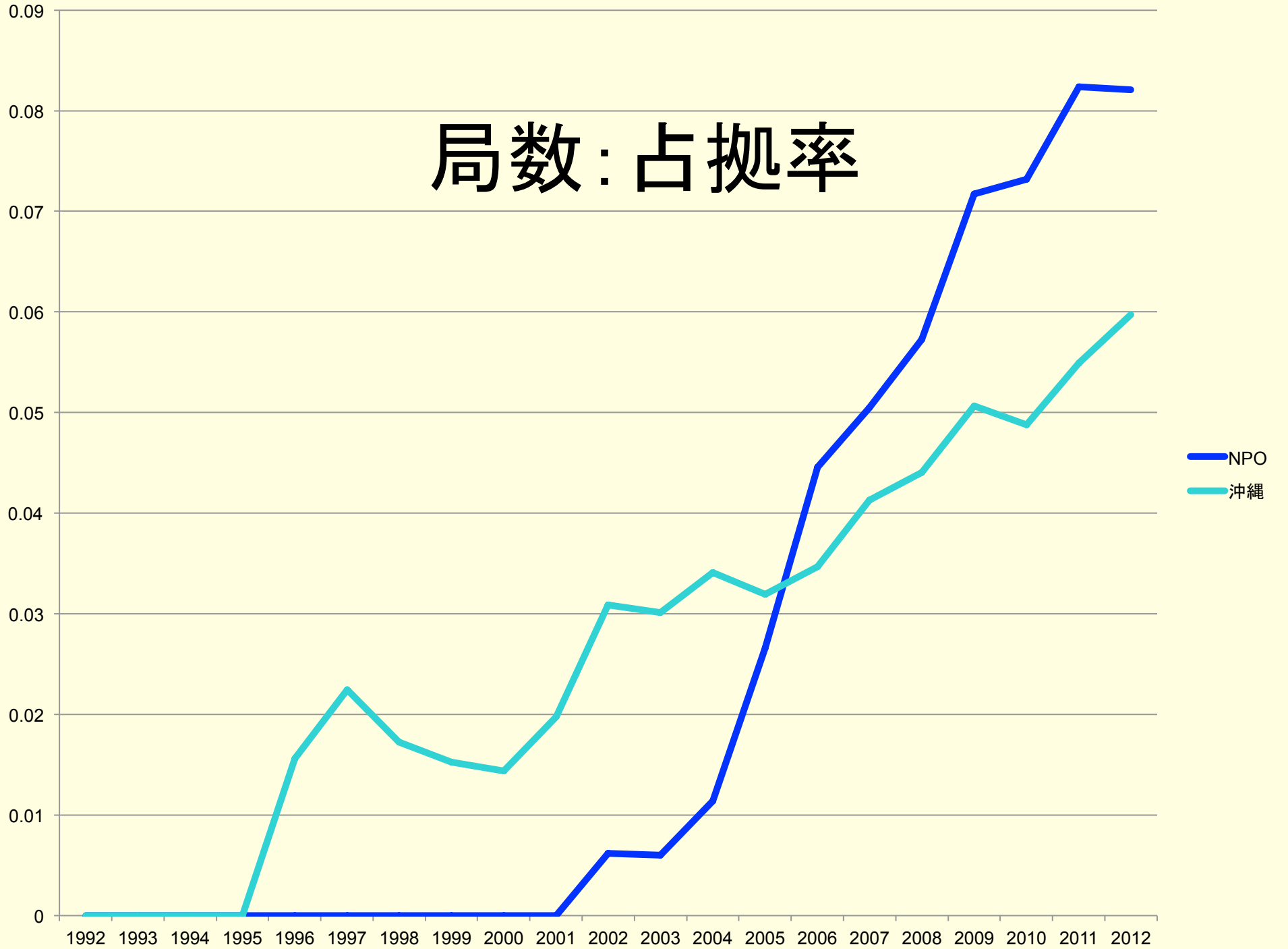
# コミュニティ放送の存立基盤

- コミュニティ放送の経営は営利性に乏しい
- にもかかわらず、新規参入が拡大している
- 政策的支援（自治体レベル・国レベル）
- 参入障壁＝初期投資費用の低下傾向（？）
- 量的拡大は、売上高2000万円以下の部分
- 沖縄市の事例はいずれも資本金2千万円未満

# 放送中の局数



# 局数：占拠率



# コミュニティ放送の存立基盤

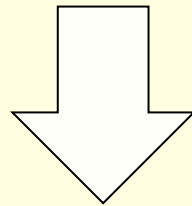
- コミュニティ放送の経営は営利性に乏しい
- にもかかわらず、新規参入が拡大している
- 政策的支援（自治体レベル・国レベル）
- 参入障壁＝初期投資費用の低下傾向（？）
- NPO法人によるコミュニティ放送局の普及も、参入障壁低下傾向の傍証

# コミュニティ放送の存立基盤

- 近年の沖縄県におけるコミュニティ放送の普及は、参入障壁、特に**初期投資費用の低下傾向**によって後押しされている側面があるのではないか？
- 内地の最初のブームの際には、沖縄の起業家には、リスクが大きすぎて容易に手が出せなかったか

# コミュニティ放送の存立基盤

- 担い手に注目した、まったく別の論点
- 沖縄には、プロ/アマを問わず、分厚い芸能者、表現者の層があり、ラジオに露出することに意義を見いだす者の裾野は広い



- 自分が費用負担して番組を持つ意味がある

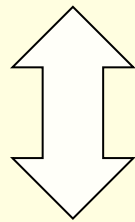
# コミュニティ放送の存立基盤

- 担い手に注目した、まったく別の論点
- 芸能者だけではなく、かつてのFM Champla! 関係者からは、市議会議員複数や、国会議員も輩出した
- コミュニティ放送の聴取率は限られていても、地域指向の住民の間への浸透力は重大



# コミュニティ放送の存立基盤

- 放送局の営業モデルの違い
- 放送局が番組を制作し広告営業をする



- 番組を送り出したい人たちに時間枠を売る
- 時間枠を買った者が自分でスポンサーを見つける事は自由      NPO法人の会費制と似る

まとめ

## とりあえずの考え(仮説)

- 近年の沖縄県におけるコミュニティ放送の普及は、参入障壁、特に**初期投資費用の低下傾向**によって後押しされている側面があるのではないか？
- プロ/アマの境なく芸能者、表現者の層が厚い沖縄では、「自分の番組を持つ」需要が顕在化しやすく、**時間枠を売るビジネス**が他の地域よりも成り立ちやすかったのではないか？

## とりあえずの考え(蛇足)

- FM Champla! の祝祭的な一面は、永続し得なかったとはいえ沖縄県の風土性を反映していたようにも感じられる
- その失敗から学ばれたことも含め、ノウハウが蓄積されて、より身の丈にあったコミュニティのためのラジオ放送の歩みが始まっているのではないか

# ご清聴ありがとうございました

- いずれの放送局も、番組の一部をインターネットで聞くことができます

yamada@tku.ac.jp